



鶴居村図書館

北海道内で村立図書館は少なく「図書館」と呼んでいても、図書館法上「図書館」でない場合が少なくありません。そのような状況の中、2019年4月1日に「図書室」から「図書館」に変わったのが道東の鶴居村図書館です。4月1日当日の鶴居村 SNS には「『図書室』ではできなかった国立国会図書館との連携やコピーができるようになり、これからますます村民のみなさまの読書、学習に応えられるようになります」と配信しています。

1935（昭和10）年8月27日にタンチョウは天然記念物、1947（昭和27）年3月29日に特別天然記念物に指定され、鶴居村の村鳥になっています。頭上に裸出した赤色の部分があるのが特徴です。鶴居村にとってタンチョウはいかに大切な鳥なのかについては、村の公式HPからも伝わります。

給餌は冬の餌不足解消のため、国や北海道の事業の一環で行われています。給餌によりタンチョウの生息数は回復し、現在では2,000羽ほどのタンチョウが確認されるようになりました。一方で越冬期は給餌場に集中する傾向が顕著なので、国では2013（平成13）年に「タンチョウ生息地分散行動計画」を策定し、給餌場への集中化の緩和に向けた給餌量の削減や、給餌期間の短縮等の対策が進められています。給餌期間の短縮により、給餌場でタンチョウが見られる期間は短くなります。タンチョウの観察を目的に訪れる場合は、給餌期間中に計画を立てた方が良いでしょう。

タンチョウの保護のあり方について私のバイブル書『北の無人駅から』渡辺一史著（北海道新聞社2011年刊）では、給餌について釧路湿原の東側を運行している釧網本線茅沼駅を舞台に詳細な取材が書かれています。

鶴居村へ行くには、釧路駅からバスでおよそ1時間「役場前」で下車すると、徒歩5分ほどで「鶴居村ふるさと情報館」に到着します。図書館はこちらの施設に入っています。建物の前に水色のかわいい車両とディーゼル機関車が展示されています。鶴居村営軌道です。現在鶴居村には駅はありません。

簡易軌道である鶴居村営軌道は、根室本線新富士駅から中雪裡（なかせつり）、支線の下幌呂（しもほろろ）から上幌呂が1928（昭和3）年に開通したのが始まりです。しかしトラックやバスによる道路輸送の発達で1968（昭和43）年廃止となります。釧路湿原の西側を走るので車窓からの景色は美しかったです。

主産業は酪農。生乳を加工したナチュラルチーズはもちろん村の特産品です。雄大な自然

に囲まれ、日本最大の湿地「釧路湿原国立公園」の西側に位置し、牧草森林地帯が広がるのどかな村なので「日本で最も美しい村」連合にも加盟しています。人口 2400 人ほど。

図書館に入ってみましょう。建物に入ると右手に郷土資料館、左手に図書館という作りになっています。蔵書は 72,000 冊ほど。地域資料コーナーはやはりタンチョウに関する資料が表紙を見せたりして写真集や絵本が目立ちます。毎週ではなく、毎月最終火曜日が休館日！

右側の郷土資料館も見学しました。大きなホルスタインのジオラマやクマの剥製が迎えます。生乳の加工の仕組みや工場の模型などが主に展示されています。道東の図書館や郷土資料館の視察と、酪農に関する専門知識を得ることができます。

現在、鶴居村含む 4 市町村にまたがる釧路湿原国立公園について大規模太陽光発電所（メガソーラー）建設という大きな環境問題を抱えています。そこで鶴居村は建設が計画されていた村内の私有地約 7.5 ヘクタールを取得する方針を決めました。タンチョウの撮影スポットにも近いことから、村を象徴する景観を守るためです。取得費用に充てる寄付の募集も開始しています。私有地では民間企業によるメガソーラーの建設計画が浮上した経緯があり、自然環境を守るため今後の建設を阻止することを目的としています。この問題は北海道内では大きな問題となっており、全国ニュースでも報道されているかと思います。

ところで釧路湿原を地図で見ると西に鶴居村、東に標茶町なのですが、湿原北部からそれぞれの町を自動車では 40 分（35km）ほどで行くことができます。しかし公共交通機関がないので、一度釧路駅まで南下して JR かバスに乗り換えて向かうので 3 時間以上かかってしまいます。道内にはこのように迂回しないと行けないアクセスがとても多く、それだけで半日以上スケジュールが変わります。

スケジュールといえば訪問した日、鶴居村にはあまり積雪がありませんでした。天候は安定しているなと思ってのんびりバスを待っている間、ふとスマホで天気予報や釧路駅から JR に乗り換える時刻を確認すると、なんと予定していた 19 時ぐらいの JR が悪天候で運休！最終は釧路駅発 16:10 根室行き！これはやばいと思い、伝家の宝刀タクシーを鶴居村から釧路駅まで乗りました。鶴居村にタクシー会社があって良かったです。無事 40 分ほどで釧路駅に到着し、ギリギリ乗車することができました。10,130 円は高額でしたが、予定が遅れると飛行機に乗れなくなる可能性があり、なんともバタバタの鶴居村でした。

遠くからタンチョウの声が聞こえます。すごく大きな鳴き声です。近くで聞くとかなり大音量なんだろうなと思います。次回は温泉もあるのでのんびり訪問したいです。

2022 年 1 月訪問
加藤 重男